

新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン

弊連盟では上記大会開催のために、公益財団法人日本陸上競技連盟の「ロードレース再開についてのガイダンス」、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会日本旅館協会全日本シティホテル連盟の「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン」を参考に、下記の内容を作成しています。安全、安心な大会運営を目指していますので参加校はこのガイドラインの遵守をお願いします。

I 関西学生対校女子駅伝競走大会開催にあたっての基本事項

1. 「3密」の回避

2. 感染症対策

- ・ こまめな手洗い・消毒を推奨する。
- ・ 全ての箇所（机、いす、パソコンなど）で清掃・消毒し、環境を清潔に保つ。
- ・ マスクを着用し、咳をする際には咳エチケットにより飛沫を飛ばさないようにする。
- ・ 大会に関わる全ての人の体調管理を徹底する。
- ・ 宿泊施設や公共交通機関等の移動において会話を避けるなど感染予防を徹底する。
- ・ 入場者は「兵庫県コロナ追跡システム」の登録を行うこと。

3. 危機管理体制の設置

- ・ 感染症予防対策の策定およびその意志決定を行う「新型コロナウイルス感染症対策室」（以下、対策室という）、また当該対策室の業務を補佐する対策分室を設置し、感染症予防対策や感染者、濃厚接触者、感染の疑いある者が出た際の対応を関係機関と連携してあたるものとする。
- ・ 対策室は本連盟会長、神戸市陸上競技協会会長、本連盟加盟校のOB医師が担う。また、対策室分室は本連盟事務局長、神戸市陸上競技協会理事長が担う。
- ・ 大会関係者が発熱、風邪の症状がある場合、前日、当日に関わらず感染症予防の観点から以下の経路で報告する。
関西学連関係者・警備員：本連盟事務局長/競技役員：神戸市陸上協会理事長
- ・ 事務局長は大会前日に必要があれば、地元の医療機関や保健所と感染症対策を講じた上で打合せを行うものとする。

4. 観客について

- ① 今大会は一般観客の入場を認める。
- ② 観客は過去 1 週間の体調を自らチェックし問題のない方のみご来場ください。チェック項目に抵触する事項が 1 つでもある方はご来場をご遠慮ください。
- ③ 声を出しての応援は禁止とする。（大学関係者も同様）
- ④ 一般の施設利用者に対しても、声を出しての応援を行わないよう競技役員が促すなどの対応を行う。
- ⑤ 別紙「観客の皆様へ」を確認すること。

II 関西学生対校女子駅伝競走大会開催にあたっての配慮事項

1. 感染防止対策の基本

- (1) 大学関係者（選手・チームスタッフ・付き添い・補助員）に対し実施すること

- ① 競技会 1 週間前からの体調管理および検温を義務付ける。なお、T & F とは異なり、入場者の動線を細かく分けることが難しいため、各個人が体調を管理できているか関西学連が確認する。そのため、会場入りする可能性のある大学関係者は全員「体調管理チェックフォーム」に毎日回答すること。
- ② 各大学は前日及び当日に検温計を用意する。
- ③ 当日の入村者名簿は 9 月 20 日までにメールにて関西学連に提出すること。
* 万が一、変更がある場合は、当日のスタッフ受付にて申し出ること。
- ④ 大学代表者は、出場者全員の体調を確認した証明として「確認書」を、前日の監督代表者会議の受付にて提出する。「確認書」を提出しない大学は当日の競技会出場を認めない。
* 「確認書」：参加する大学関係者全員の体調管理チェックフォームの回答も確認した旨を証明する書類。
* 個人情報の取り扱いに十分注意しながら、本大会参加者より提出された書類は大会終了後 1 か月間保管する。
- ⑤ 大学関係者はリストバンドを着用すること。
- ⑥ 体調が不確かな競技者がいた場合は、医師の指示状況により参加を許可しない。
- ⑦ 運動中につばや痰を吐くことは絶対に行わない。
- ⑧ 参加校の責任で輸送を行う。
- ⑨ 補助員に関して、37 度以上の発熱や風邪の症状がある場合には、交代要員を出すこと。

(2) 競技役員に対し実施すること

- ① 当日受付にて「体調管理チェックシート」を提出する。
- ② 原則として各個人の車両にて移動し、現地集合・現地解散とする。ただし、移動する際は感染予防を徹底し、マスクの予防を徹底しマスクの着用を怠らない。

(3) 警備員に対し実施すること

- ① 本連盟が作成した体調管理チェックシートを大会当日に提出してもらう。
- ② 発熱（37 度以上）や風邪の症状がある場合、関西学連が行う感染症予防対策に同意した行動をとる。
- ③ 警備会社は発熱や風邪の症状があり欠席する警備員の欠員を補充する対応をする。

(4) 応援に関して

- ① 部員、大学関係者の大会開催地域での声を出しての応援は禁止とする。

2. 競技における配慮事項

(1) 中継所事項

- ① 招集所について
 - ・ 拡声器を使用し、選手が密にならないよう、ソーシャルディスタンスを取りながら招集を行う。
- ② 選手の待機場所について
 - ・ 競技役員は選手に対し、ソーシャルディスタンスを保つことを呼びかけ、注意喚起を行う。
 - ・ 選手は競技中以外、マスクを着用し、付添は選手に大声で話しかけない。
- ③ 選手受け止めについて
 - ・ ゴール後、選手受け止めをする競技役員、付添はマスク、フェースシールド、手袋を着用する。
 - ・ ゴールした選手にはマスクまたは代用品を提供し着用、手指消毒を行う。

(2) 給水事項

- ① 競技開始前に手指を消毒し、マスクフェイスシールド、手袋をして行う。ただし、手渡しでの提供は行わない。
- ② スポンジは使用せず、ランナー間での回し飲みは認めない。

3. 施設における配慮事項

(1) 宿泊施設について

- ① しあわせの村宿泊館の対策について
 - ・ ロビー、浴場、食堂等、宿泊者が同時に利用する場所の消毒を徹底する。
- ② 部屋割りについて
 - ・ 1 部屋につき基本的な収容人数より割合を減らし割り振るよう調整する。
 - ・ 可能な限り、複数大学で同部屋を利用しない。
- ③ 宿泊者への対策について
 - ・ 入館時、37.5 度以上の発熱がある場合、即時帰宅させる。
 - ・ チェックイン・アウト時は代表者がまとめて行うこと。

4. メディア・取材への配慮事項

- ① 申請について
 - ・ 本連盟の HP に事前に申請方法をあげて遵守するよう通知する。特に体調管理チェックシートの提出がない場合は取材の受付を認めない。
 - ・ 密になる可能性が予想される場合、申請場所で取材できない場合がある。
- ② 大会前日、当日の取材について
 - ・ 受付時には、申請用紙と体調管理チェックシートの提出の厳守を周知する。また、同時にその場で検温を実施する。
 - ・ 取材方法、取材人数、取材エリアの遵守等、必ず関西学連の指示に従うこと。

5. その他の事項

- ・ 参加者は大会後、症状が 4 日以上続く場合は、必ず最寄りの自治体の衛生部局と本連盟に報告を行う。
- ・ ゴミは各自ビニール袋に入れて持ち帰る。招集所等にあるゴミ箱は全て使用不可とする。
- ・ 嘔吐物は個人防護具を着用した者が対応し、消毒を行う。
- ・ リザルトは掲示をせず、本連盟の HP にあげる。